

VOL. 66
2015
SUMMER

Life Is Art

ホンマタカシ

Inspiring Talk

大塚ムネト × 仲谷一志

ART TRIP in 大分

混浴温泉世界・トイレナーレ

愛でたし伝統文化

博多鋏



Contents

Life Is Art	03	写真家 ホンマタカシ
Inspiring Talk	04	大塚ムネト × 仲谷一志 ↳ 劇団ギンギラ太陽'S主宰 ↳ 劇団ショーマンシップ座長
Pick up Artist	07	武内貴子 from スウェーデン
Art Event Clips	07	イベント情報
愛でたし伝統文化	08	博多 ^{はさみ} 鉋
福釜芸術放談 12	09	「ウリガナミガ」の精神で
Welcome to ARTLIER ^{アトリエ}	09	おすすめの公演
セリフからはじめる演劇の話	10	「一等賞!」 ^{もり かおる} 森馨由
アートな穴場	10	ミュゼ・オダ
Art Trip In 大分	11	混浴温泉世界・トイレナーレ
FFAC Information	12	財団からのお知らせ
FFAC レポート	14	財団事業報告
おしゃべりな学芸員	15	福岡アジア美術館 学芸員 松浦仁
	15	読者プレゼント

川崎さんの
作品がみられる展覧会、
「トイレナーレ」の情報は
P.11 ART TRIPへ

Cover Artist



川崎 泰史 かわさき やすひと ブログ <http://d.hatena.ne.jp/kawasakiyasuhito/>

1983年佐賀県生まれ。2010年金沢美術工芸大学大学院鑄金専攻修了。2010年4月から3年間、富山県の鑄造会社に就職(主に村上隆氏の鑄造作品の制作を担当する)。2013年5月から現在、NPO法人 BEPPU PROJECTが運営する共同アトリエ、清島アパートに入居。

Q

作品の人物像の
モチーフは?

A▷これは自画像です。僕はみんな生まれた時から、親や兄弟など似た顔に囲まれて生きていると思うんです。飼い主とペットは似ているとか、夫婦は似てくるとかよく言いますが、人は自分の顔に似た顔だけを“顔”と認識しているのでは、と興味を持ち、自分に似た顔を大きく「自画像」と捉えて、このシリーズを3、4年作り続けています。

「flower」

FRP・アクリルガッシュ・ウレタンクリア
H570×W180×D200(mm)



Q

作品制作の楽しみ、
こだわりなどありますか?

A▷人物像の表情ですかね、自分の体調や気分です。その時々、違った感情を持つ人物像に見えることがあり、驚かされることがあります。

Q

別府の
魅力は?

A▷別府は整理整頓されていない美しさを持っていると思います。家の前の道には、はみださんばかりに植木で飾られていたり、お風呂がついてないという家の造りが主流で、近くの温泉に入りに行く。そんなところが家の内側と外側の境界線を曖昧にして、街全体が大きな家といった雰囲気を持っている感じがします。



Q

今後の活動への展望を
お聞かせ下さい。

A▷とにかく作り続けていくことですね。もちろん作品が売れるようになることも目標ですが。あとは、立体だけにこだわらず、平面などいろいろな作品に挑戦したいですね。

「あいつなんて?ハテナ」

FRP・アクリルガッシュ・ウレタンクリア
H600×W330×D130(mm)



「濡れたピノキオ」

FRP・アクリルガッシュ・ウレタンクリア
H270×W430×D250(mm)

Life Is Art

ホンマタカシ

見えないものを見る

私たちの身近にある風景や物事、アーティストの目を通して見ることで新たな側面が浮き彫りになる。福岡 太宰府天満宮でそんな体験をさせてくれる作品を提案した写真家ホンマタカシさんにインタビューしました。



© Takashi Homma
Courtesy of Dazaifu Tenmangu Shrine, Fukuoka,
TARO NASU, Tokyo

太宰府天満宮アートプログラム vol.9

ホンマタカシ「Seeing Itself - 見えないものを見る」

会期◎ 2015年4月26日(日)～8月30日(日)

休館日◎ 月曜日(7/20は開館)

開館時間◎ 9:00～16:30(入館は16:00まで)

会場◎ 太宰府天満宮宝物殿第2第3展示室・竈門神社展望デッキ
観覧料◎ 一般400(300)円 高大生200(100)円 小中生100(50)円

お問い合わせ◎ 太宰府天満宮文化研究所

TEL◎ 092-922-8225(9:00～17:00)

◎太宰府の霊山「宝満山」の麓に鎮座する竈門神社の一間をカメラオブスキュラにして撮ったピンホール作品、太宰府天満宮の御神馬を取材した映像作品など、バラエティに富んだ新作の数々をご観覧頂けます。

詳しくは⇒ <http://www.dazaifutenmangu.or.jp/art/program/vol.9>

— 太宰府という新境地での作品制作について教えてください。

「見えないものを見る」というテーマを太宰府を取材している間に思いつきました。神社、神道のコンセプトチュアル性の核、「全部見せない」「見ることができない」ところがコンセプトアルアート(※)に近いのではと思います、どんなアイデアが生まれてきました。神秘体験をしたわけではないけど、神社の持つ力に徐々に引き込まれていきました。

目立たないものに、目を向けて取り上げたい、声を与えたいということが常に念頭にあります。アートって美学的なことだけではなく、記録する役割や価値があると思います。作品中の蹄鉄替えのことは僕も知らなかったし、物事が実際にどういう風に行われているのかを記録したいと思えました。文献などで調べて論文として書き残されることはあるかもしれないけれど、映像で残さないと抜け落ちてしまう部分があるんじゃないかと思えます。記録すること、美学的、コンセプトチュアル的に優れた表現であることとの両立は難しいところでもあります。が、ただきれいな作品かどうか、それだけのものではないほうがいいかなと思います。

— 作品制作で大切にしていることはありますか？

必ずしも自由ってそんなにいいものじゃない、制限を楽しむ方がいい気がします。人間って寝なきゃいけない、寝るからその日の作業に終わりがあ、そういうことがアートの制作にも重要なんじゃないかな。もちろん不条理な制約ではなくて、制限は自分で設定しないとね。人生にも限りがある。年を重ねて、いつか必ず死ぬという「有限性」に気づいたとき、くだらないことはやりたくないと思うようになります。今は我慢してやる仕事はしないですね(笑)。

— 「見えないものを見る」作品をつくることについて教えてください。

興味を持って見てもらいたいです。けれども、そこに過剰にサービスするのはなく、あとは能動的に見て欲しい。今の世の中、すべてがわかりやすく、早く、つてなつてしまつてから、そればつかりだとみんな馬鹿になつちやいますよね。わかりやすいところがわかりにくいところがあつてもいいんじゃないかなあ。アートって基本そういうものじゃないかな。全部説明しちゃつたら面白くないから、ぜひ実際に行つて見て欲しいと思います。損はしないと思います。

— 今後の活動の展望は？

僕の制作はずっと繋がつていて、今やつてることを発展させる間に、また新たな作品が生まれるかもしれないですね。やりたいことがたくさんあるので、今世でやりきれるかどうかが心配です(笑)。もちろん、なんでもではなく、自分が出ることという意味ですが。太宰府では、今回少し手がけた、鬼すべと神幸式大祭の映像をしっかりと作りたいたいと思っています。

※コンセプトアルアート

1960年代以降の現代芸術の潮流のひとつ。作品の物質的側面よりも観念性・思想的性を重視し、表現する芸術。

取材協力：太宰府天満宮文化研究所
ホンマタカシ◎写真家

1962年生まれ。1999年写真集『東京郊外』で、第24回木村伊兵衛賞を受賞。2011年から2012年にかけて、自身初の美術館での個展「ニュー・ドキュメンタリー」を日本国内三カ所の美術館で開催。写真集多数、著書に『たのしい写真』『よい子のための写真教室』がある。近年、建築をカメラオブスキュラにして都市を撮るピンホール作品のシリーズや動画作品の発表を行う。現在、東京造形大学大学院客員教授。
<http://betweenthebooks.com>



Inspiring Talk

福岡の演劇を語ろう

福岡の開拓史を演劇で語ってきた劇団ギンギラ太陽's主宰大塚ムネトさん、福岡唐人町商店街を拠点に地域、街の歴史のことを語ってきた劇団ショーマンシップ座長仲谷一志さん、地元福岡の演劇シーンを支えてきたお二人が、初の同時出演作品に挑戦する。地元福岡で演劇活動を続けること、新たな挑戦に対する思いを語っていただきました。

コラボレーションに至るまで

大塚▼お互い自分の劇団の活動もあって、なかなか一緒に仕事をする機会がなかったよね。

仲谷▼ところがショーマンシップの去年の1月公演で、僕とダブルキャストで大塚さんに出て欲しいって言った時はあっさり引き受けてくれましたよね。大塚ムネトという役者さんに被り物なしで出演をお願いしたら、どうなるんだろうっていう期待があったんです。僕の演出に「そんなことできるか〜！」って言われることも覚悟してただけで（笑）、いざ稽古場に入るとこんなに従順な俳優さんはいなくて（笑）。僕が演出家として出したオフアールにもしつかり応えてくれて。僕は演出しながら自分の演技がどう見えているのか気になっていたんだけど、稽古中、僕が舞台に立ってる時は、その演技を見てアドバイスをしてくれて、そのうち共同演出みたいなことが、ごく自然にできたんですね。そして僕にくれるアドバイスもとても心地よくて、それは、お客さまへの責任意識というか、エンターテインメントをやってきたということがお互い根底にあったからで



© Akiko Tominaga

戦後70年プロジェクト ギンギラ太陽's×劇団ショーマンシップ 「奪われた手紙～福岡民間検閲局～」

【脚本】生田晃二
【演出】大塚ムネト・仲谷一志
【出演】大塚ムネト(ギンギラ太陽's)・仲谷一志・
原岡梨絵子(wキャスト)坪内陽子(wキャスト)他
劇団ショーマンシップ演技陣

【公演日】2015年8月4日(火)初日～8月30日(日)
【会場】甘棠館 Show 劇場(福岡市中央区唐人町 1-10-1 カランドパーク 2F)
【料金】【前売】一般：3,000円(税込) 学生：2,000円(税込)
【当日】一般：3,300円(税込) 学生：2,300円(税込)
【マチネ】2,500円(税込) 一般販売 平成27年6月26日(金)
発売予定(チケット取扱い：ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、劇団ショーマンシップ)
主催 有限会社ショーマンシップ
お問合せ 劇団 092-716-3175 詳しくは→<http://www.showman.jp/>

仲谷一志

なかにひとし



大塚ムネト

おおつかむねと

すかね。そして、芝居づくりの合間で、自然と来年は何やるの？
って話になって……。

大塚▼それで「ギンギラは戦後70年をテーマにやるんだ」って話して。

仲谷▼実は僕も、福岡の戦後の歴史を刻む作品をやりたいなと思って考えていて共通してましたね。ここ20年ってパソコンやスマートフォンなどに牽引されて、世の中の変化が速い時代だったけど、僕らが生まれた昭和40年は戦後20年でもあったわけで、今から20年前、僕たちが30歳の時が終戦だったと考えると人生の真ん中を戦争の復興の時代を生き抜かなければいけないなかつたと思うんです。その20年という時間の流れを体験した我々こそ、しっかり大事なことを語っていくべきで、今その時がきているのではないかと思うようになりましたよ。

大塚▼これまでは自分のスタイルを追求するのに必死だったけど、もう自分で出来る事は、一通りやったなと思っただけです。地元でこだわりの全国にも知られ、おかげさまで企画にあわせて「自分が上演したい劇場」で公演も出来るようになったし。それで、他の団体に興味を持って。あまりやらなかった客演を引き受けたのも、ちょうどそのタイミングだったんです。

福岡で演劇をやること

仲谷▼僕は、最初に所属していた、劇団テアトルハカタを立ち上げた師匠に、「家族や知り合いがいるこの街でできなきや、東京行つたつてだめだよ」って30年前から叩き込まれてたから、最初から福岡で生活していくことしか考えてなかったです。

大塚▼僕も地元福岡で芝居をしたいと思っていただけで、東京を知らないで地元が一番と言うのは違うと思って。それで東京に偵察に行きました。ちょうど離婚した母親が東京に引越して、住む所にも困らなかつたので（笑）。小さなアマチュア劇団から学生演劇、有名な所も手伝いましたよ。そうやって体験取材



をしてわかつたのは、結局東京でも「その劇団の魅力」が無ければ、生きて行けないという事。東京がマストではない事を確認して、安心して地元での活動に没頭しました。20代後半で福岡に帰ってきて、夜中にTVを観てたら、「わんかめ」っていう番組をやっていた……

仲谷▼あゝそれ、20年前くらいにやっていた、親不孝通りで夜中に30分間カメラを回すっていう番組ですね。

大塚▼いきなり芝居じゃ食えないし、さてどうしようかと考えてた時に、地元で劇団やってる（仲谷）座長が番組をやっている事を知って、その手があるのかつて思っただけです。でも、自分もやりましたが、メディアと演劇の両立は難しかったです。

仲谷▼18歳でこの世界に踏み込んで福岡でやっていくために、メディアに出ることは大事だったんです。大塚さんみたいに真面目じゃなかつたから、振り返る暇もなく次々に流れていく放送という世界も僕にはあつたのかもしれないですね。気づいたら、ラジオはもう25年もやっていますよ。

大塚▼月々金で25年間毎日メディアの仕事やるって、タモリさんみたいだよ（笑）

仲谷▼この春からはスケジュールを自分でコントロールして、週に2日ほど、平日に新しい時間の使い方を探しています。

大塚▼福岡でしかやれないことを探して、メディアとも関わりながらがき続けて……。『作・演出・かぶりモノ製作・出演』の全てをやることで、やっと自分の世界を確立できました。大変だ大変だといながら、結局これが自分に一番合っているんだと思います。

仲谷▼そうですね、大塚さんにとって『ギンギラ』での活動が一番いい表現の場であるような気がしますよ。昔は演劇やってても、職業としては見てもえなかつた。だから、当時、メディアに出て福岡でも出演することが職業になるんだと言って、

戦後70年特別企画第一弾

「天神開拓史2015」

【脚本・演出】大塚ムネト
【出演】大塚 ムネト・上田 裕子・中村 雪絵・
宗 真樹子(劇団きらら)/他
【ゲスト出演】劇団ショーマンシップ
仲谷 一志、原岡 梨絵子

【公演日】2015年6月19日(金)～6月22日(月)

【会場】西鉄ホール(ソラリアステージ6F)

【料金】全席指定 3,500円

主催・企画 ギンギラ太陽's

提携 西鉄ホール

制作 アンミックスエンターテインメント/ピクニック

お問合せ ピクニックチケットセンター 050-3539-8330(11:00～17:00)

詳しくは→<http://www.gingira.com/>

大塚ムネト

おおつか むねと

ギンギラ太陽's 主宰。

作・演出・かぶりモノ造型・出演の全てを手がける。

作品は地元福岡を題材に「かぶりモノ」で

擬人化したビルや乗り物が登場。

平成19年福岡県文化賞、平成22年福岡市民文化活動功労賞を受賞。



分かってもらうためにやってた側面もありましたね。

演劇に経済を伴わせること

仲谷▼劇団テアトルハカタを離れて、一人芝居

を始めたけど、最初は沢山入ってくれてたお客さんも、少しずつ減りはじめて、これは正直、面白くないからだと思いました(笑)。一人芝居をやりだしたのは、劇団を離れても芝居がやりたいという僕の勝手な事情であって、一人でないと表現できないことをやりたかったわけでも、求められてたわけでもなかった。これはお客様を無視していた企画だと判断しました。そしてタウン誌に劇団員募集の記事を載せてもらって、シヨーマンシップを作ったんです。それから常に、経済との戦いをしながらの20年でしたね。

大塚▼役者だけをやっていた時は、メディアの仕事で生活を支えてましたが、企画・演出・脚本を手がけるようになって、ようやく演劇が仕事になりました。それで「今度は役者が食えるように」と全力疾走で現場を作ってたんですが、ボクが倒れてしまつて……。今、仕切り直して戦い方を模索している所です。だから、事務所を構え劇団員と共に戦う座長が、本当にすごいな。座長と仕事していると、ちゃんと経営者としての立場もあって、僕が「ここでいっばいキャラを出そう」とか言うと、「うん、でもいっばい出たらいくらかかるかな?」って、費用対効果を踏まえた意見が出るし。

仲谷▼あんまりかっこよくないですけどね(笑)。でも僕が演劇をやっていく中で常に問われてきたことだし、シヨーマンシップをプロダクション化するときは役者の職業を作るという大命題があつて、未だ転がり続けていますよ。大塚ムネトに丸を描けというと、きつと丁寧なきれいな一つの



Inspiring Talk 06

大きな丸を描くと思うんです。僕は、同じ丸でもあちらこちらに小さな丸を描いていく。僕はひとつに没頭できなかった代わりにはやれたこともあるかもしれないけど、僕が大塚さんに憧れるのは、緻密に描いた丸のきれいさが、作品や演出にでているし、そんな丁寧な仕事を仕上げる人と仕事をしたいなと思いました。今回、大塚さんの描くきれいで大きな丸のまわりに僕の描くいびつな小さな丸をちりばめたら面白いかもと考えたんです。

演劇を続ける覚悟

大塚▼「無許可で地元企業を擬人化」した芝居を作ってきましたが、怒られるどころか応援してもらって17年目です。許してもらったからには、「街の語り部」としてしっかりモノ語っていかねばと思いますね。

仲谷▼僕も唐人町商店街を拠点として地元の歴史を語ってきたけど、今回のテーマも積極的にそのテーマに辿り着いたんじゃないかと、今の場所がこのテーマに引っ張り込んでいったっていう感覚がありますね。地元の僕らが地元の歴史を語るっていうのが、東京の大きな劇団にも大きな劇場にもできない、僕らだけがやれる企画だと思っています。その点では我々が本物になれる瞬間なのかもしれないね。

大塚▼いろんな表現方法があると思うけど、僕らは「地元の物語を芝居にするのだ」という決意と覚悟を持って演劇を続けています。

地元の歴史を語るという共通点を持ちながらも、異なる手法で演劇と向き合ってきたお二人だからこそ実現した、新たなコラボレーション企画、ぜひお見逃しなく!

仲谷一志

なかたに ひとし

1994年10月より劇団シヨーマンシップを旗揚げ。

タレントとしてはRKBラジオを中心に活躍。

劇団座長として、ほとんどの作品の制作に

プロデューサー・演出家・役者として携わる。

劇団シヨーマンシップ座長。



【Levande ljus】2015
Gallery Syster (Sweden, Luleå)にて
素材：蠟燭、鏡、毛糸、米、水彩



Pick up Artist

—今回スウェーデン滞在、制作しようと思ったきっかけを教えてください。

旅や展覧会でいろんな都市を訪れる中、2010年スウェーデン・ルレオに初めて来ました。福岡と全く違う自然や環境にとっても惹かれました。そして、私の「結び」というコンセプトが自然ととも、深い関わりがあることから、自然豊かな静かなスウェーデンでじっくり考え、新しい視点を生み出したいと思い滞在制作を決めました。

武内貴子

1979年福岡生まれ。福岡教育大学大学院美術科修了後、現代美術家として国内外を問わず展覧会やワークショップを多数開催。現在、スウェーデン・ルレオに滞在中。日本文化のひとつである「結び」をコンセプトに活動。

—今回の展覧会について滞在制作でのリサーチ、インスピレーションを受けたもの。テーマやコンセプト。

滞在当初、スウェーデンの伝統的な「結び」について特別な意味をみつけようとしたもののそれは困難だったので、「結び」とは決して目に見えるものだけではなく、ここ北スウェーデンでは何が人と自然を結びつけているのか、ということに視点を向けました。そして、気がついたのは「光」でした。生活しているのとそれを強く体感し

ます。北スウェーデンでは冬になると光が姿を消し、1日3時間程度しか自然の光が存在しません。そのかわりに、蠟燭があちらこちらに灯り、人々は蠟燭を囲み、ファイカと呼ばれるお茶の時間を過ごすのです。そのスウェーデンの大切な文化である「ファイカ」と「光」をコンセプトに作品制作を進めてきました。これまでこだわってきた「結ぶ」という行為を違う表現でとらえることで、私の「結び」に幅をもたらすことができたように感じています。

—スウェーデンについて、風土や気候暮らしなど教えてください。

私のいる北スウェーデンは、冬の寒さが厳しいですが、海まで凍ってしまう氷点下の世界は息を呑む美しさです。お店も早く閉まり、日本のような便利さには欠けませんが、特に不自由も感じません。とても静かで、人々は自分の時間や家族との時間を大切に過ごし、丁寧な暮らしをおくっています。

—これから活動していく上での展望と帰国後の展覧会情報。

海外での発表は続けていきながら、常に視野を広くもっていたいと思います。同時に日本でも「結び」の伝統についてのリサーチを続け深めていきたいです。

帰国後10月のRe: Nexus - Paper Works「Expressions-紙、やぶる形」展(福岡県立美術館)に出品予定です。

07



アクロス・文化学び塾

「天下人の城 肥前名護屋城がCGで甦りました!!」

8月1日(土) 14:00 ~ 15:30
(7/1 から申し込み受け付け開始)

今から420年前、天下統一を行った豊臣秀吉が朝鮮出兵のために築いた肥前名護屋城が、高精細CGで復元されました。本講座では、「バーチャル名護屋城の世界」



の楽しみ方をご紹介します。

受講料 / 500円(当日受付にてお支払ください)

アクロス福岡 2階セミナー室2
アクロス福岡文化観光情報ひろば
福岡市中央区天神 1-1-1
☎092-725-9100

シネラ 特別企画 炭鉱の記憶

6月10日(水) ~ 7月12日(日)

福岡市博物館「山本作兵衛の世界」に併せて炭鉱を描いた映画、「青春の門」「にあんちゃん」「どたんば」「作兵衛さんとの対話 2015」「坑道の記憶 炭坑絵師・山本作兵衛」「炭鉱に生きる」など16作品を上映。



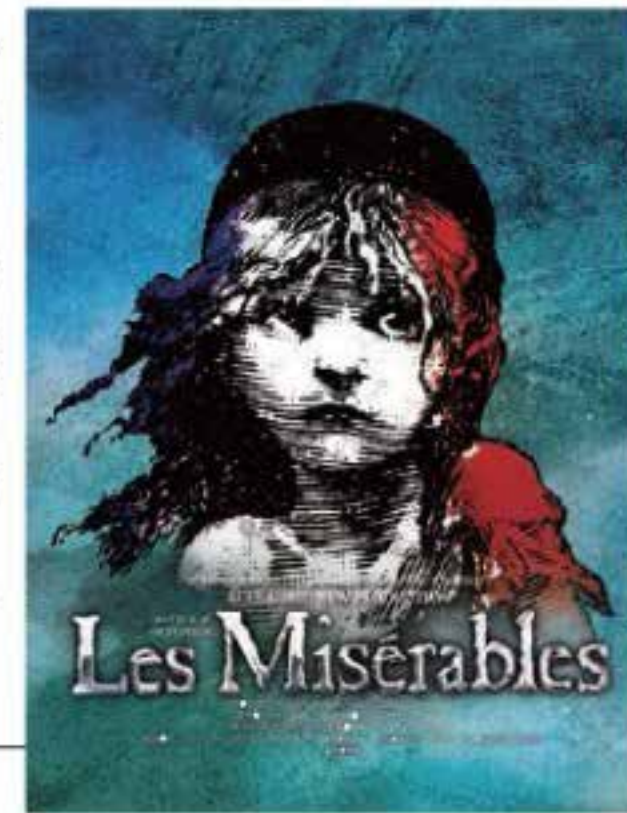
観覧料◎ 600円(大人)
500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)
※定員制。各回入替制。
※チケットはすべて当日券。
前売り券はありません。
※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円(手帳の提示が必要です)
※「わの会」会員は300円。(会員証の提示が必要です)

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ
福岡市早良区百道浜 3-7-1
☎092-852-0600 <http://www.cinela.com/>

ミュージカル 「レ・ミゼラブル」

7月8日(水) ~ 8月1日(土)

普遍的なテーマを珠玉の音楽で綴り、1985年のロンドン初演以来、全世界で観客総数6,500万人を突破した「ミュージカルの金字塔」。映画版の大ヒットもあり、日本中を熱狂させた「新演出版」が期待に応え早くも再演!



チケット絶賛発売中!
博多座
福岡市博多区下川端町 2-1
☎092-263-5555
<http://www.hakataza.co.jp>

【博多鋏】の

基礎知識

今から約700年前、南宋の帰化人である謝国明が博多に鋏を持ち帰り、それが唐鋏と称された日本で最初の鋏。幕末の頃、博多箔屋町に住む刀鍛冶師の安河内卯助がこの唐鋏の製作に取り組み、世に知られる。明治13年、高柳亀吉は、卯助翁の弟子となり、やがて師匠の刻印である登録「二字」印の継承を許される。明治20年に独立した亀吉が唐鋏を博多鋏と改称し、現在に至る。



たかなぎせいいち

高柳晴一

さん(65)

職人歴45年、博多鋏職人。高柳商店の4代目、唯一の博多鋏継承者。

高柳商店

〒812-0039 福岡市博多区冷泉町6-28
092-291-0613



提供：福岡市

愛でたし伝統文化

第4回 博多鋏

町屋造りの光差す工房は、昔ながらの鍛冶屋の道具や職人の使い込んだ家具が並ぶ。工房の壁は防音壁に囲まれ現代社会に生きる職人さんの気遣いも感じさせる。明るく気さくに迎え入れてくれたのは、博多鋏職人高柳晴一さん。ただ一人博多鋏を継承し続ける職人を訪ねてきました。

数

十年前に、櫛田神社からほど近い場所出土した、数本の鋏の写真を眺めては「こんな鋏が出てくるのは、この辺で何かしらのドラマがあったんじゃないかな」と謎の多い鋏に思いを巡らせる晴一さん。博多鋏の起源は正確には分からず、何を切るために作られたのかも分かっていない。今でも万能鋏として使われている。幕末に、天下泰平により、刀の



型抜きされることが多い昨今、成型からすべて手作業だ。10分程冷ますと、研ぎの工程に移り、でこぼこの鉄の表面を丁寧に削る繊細な作業。砥石で磨かれキラキラと光る小さな包丁のようになっていく。鋏は二枚刃を擦り合わせてものを切る構造のため平面ではなく、複雑な三次元構造をしている。まさに研ぎ澄まされた感覚で一本一本丁寧に磨きながら成型、その中から厚み、太さの合う2本を選び、ペアを決める。この段階でペアになったもの同士はこの先、すべての工程を共に進んでいく。ここでペアを作るのが難しい、ここでパートナーが決まらなときは、後で合わせようとしてもなかなか合うのが見つ

間に埋めた金床(かなど)の上で打つ。八方に飛び散る火花とともに、カンツカンツと特有の音が響き緊迫した空気が流れる。勇ましい腕力のいる作業が何度も繰り返されていく。片方のパーツが成型されていく。

「からない」と鋏にも巡り合わせがあるようだ。この研ぎはほんの始まりで、ここから火造りと研ぎを何度も繰り返していく。腕力を要する工程と繊細な工程、この両方を経て、納得のいく鋏は1日に一、二本しか完成しない。「根気やね、とにかく



根気・・・と鋏作りを語る晴一さん。大事に見せてくれた完成品は凛としていて美しい。叩かれ、研がれた職人の魂そのものだ。謎の多い鋏の歴史に想いを馳せながら毎日鋏を作り続ける。



文化芸術情報館 アートリエ

文化芸術の普及振興のため、全国各地の情報を収集、発信する施設です。イベント情報の提供やチケット販売を行うほか、アートイベントを開催しています。お気軽にお立ち寄りください。

〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-1
リバレインセンタービル 7F
(福岡アジア美術館内)
営業時間▷10:00～20:00
(チケット販売・わの会入会受付は19:30まで)
休館日▷毎週水曜日
(水曜日が祝休日の場合はその翌平日)、
12月26日～1月1日
※福岡アジア美術館の休館日に準じます。
お問合せ▷
TEL092-281-0081 FAX092-281-0117

優待割引チケットの販売も行っています。
発売情報はメルマガでチェック!
メルマガ登録はこちら



Welcome to Artilier

カウンタースタッフ
おすすめの公演!

桂まん我の落語を聴く会
博多編
第十一回

桂まん我 ひとり会

粋で洒落てて、でも泥臭くて、人間臭い…、
そんな落語の中のあったかい登場人物たちを
生き生きと表現します。
ぜひ、お見逃しなく!

公演日時▷2015年9月9日(水)
19:00開演(18:30開場)
会場▷アクロス福岡 円形ホール
住所▷福岡市中央区天神 1-1-1
チケット▷前売2,500円/当日3,000円

※小学生以下の入場はご遠慮ください
チケットに関するお問合せはアートリエまで!

大好きな博多で陽気なお客様に盛り上げていただき、こちらでの会も早いもので第11回となります。でもまだ未体験の方、マイク無しの生声で、ライブの落語の魅力を是非、味わってみてください。損はさせません。



桂まん我 さん

1971年生まれ。神戸市出身
1999年に四代目桂文我に入門。
2007年に平成18年度文化庁芸術祭新人賞受賞、
2011年にNHK新人演芸大賞を受賞。
新進気鋭の落語家。

この連載の依頼が福岡市文化芸術振興財団からあったのは、私が西日本新聞社から韓国の友好紙、釜山日報社への1年間の派遣を終えて帰国してまもない頃で、2011年初夏のことだった。東日本大震災が発生してからも、そう時間はたっていないかった。日本中には重たい空気が漂っていた。そんな空気の中で行われた統一地方選挙関係の仕事に追われ、私は慌ただしい日本の生活へと完全に戻りきっていた。

福釜芸術放談 「ウリガナミガ」 の精神で

「このまま、釜山での日々を忘れてしまおうのだろうか?」不安もよぎり始めていた頃で、願ったりかなったりで引き受けた。先日また統一地方選があった。あれからもう4年になる。振り返ると、連載当初は釜山の芸術環境の実情を紹介したり、「こんな交流をしたらどうか」といった文字通りの「放談」も多かったりした。実際の交流が動き始めると、次第に交流の動きを私の方が追いかけて報告していく状況に変わってきた。一方で、国レベルでは日韓関係がすっかり冷え込んだ。

昨年頃からは、福岡側内部で「壁」があった芸術ジャンルを超越する取り組みも交流の成果として出てきた。昨秋に福岡トリエンナーレに出品された演劇作品「パダパダ/波の少女」がその代表である。その流れはさらに続き、今年には劇団14+(福岡市)が参加した舞台作品のチラシを画家の田中千智さん(同市)が手がけることも決まっている。3月にはトーク企画「福岡と釜山、往来する演劇とアート」もあり、これまで別々に釜山とのプロジェクトを実践してきた演劇やダンス関係者が初めて一堂に会した。各参加者の話は興味深かったが、印象に残ったのは、「なぜ釜山ではもともとジャンルを超えた協力態勢があるのか?」との福岡側からの問いに対し、WATAGATA福岡釜山アートネットワーク釜山側代表のキム・ヒジンさんが紹介した韓国南部・慶尚南道の方言だった。「ウリガナミガ!」(ウリガナミガ/俺たちは他人かい?) 反語表現で「あなたと私の仲で、水くさいじゃないか」ぐらいの意味だ。ヒジンさんによれば、だから釜山ではジャンルを超えて助け合っているのだという。さらにこう続けた「私たちには福岡の人も「ウリガナミガ」の関係なのだ」と。

内門 博

西日本新聞記者。最近、韓国のシットコムドラマ「まるごとマイラブ」全210話を4年がかりで見終えて感無量。著書に『校歌を歌えば』(書肆侃侃房)

セリフからはじめる
演劇の話

「二等賞！」

14×劇団HIT! STAGE合同公演『血の家』のセリフです。

かつて、私が書いたセリフで、これ程物議を醸したものはありません。

『血の家』は第19回新人戯曲賞の最終選考に残った作品ですが、

最終審査会でその疑問は生まれました。「二等賞って何だ？」と。

もちろん意味ではなく、「何故この言葉なのか？」という問いかけです。

これは「セリフ」というよりも、物語の中で、

義理の母親が教えてくれた「おまじない」であり、

主人公が苦境に立たされた時、唱え続けたものです。

私としては、「二等賞」という響きから何かを感じて欲しい…

程度の気持ちで入れたもので、

正直、ここまで論議を呼ぶとは思っていませんでした。

しかし、同作品を2014年10月、韓国グミ市で上演した際も、

同じことをお客様から問われました。

まさか、忘れていたはずのあの疑問が、再び目の前に現れるとは…！

私はニッコリと笑って答えました。

「その答えは、お客様の心の中にあるのです。」と。

その方は優しい方で、ものすごく納得して下さいました。

恐らく、どの作品にも、作家自身にも説明のつかないセリフは存在するのです。

しかし、説明はつかなくても、お客様の耳に響いた通りの

「意味」や「想い」が込められています。

もし目の前でお芝居を観ていて、「どうしてこの登場人物は、

こんなセリフを言っているんだろう？」と感じた時、

「私だったら、○○○○って言う。」と頭に浮かんだとしたら、

それはきつと、お客様の経験と重なった言葉であり、

それもまた正解なのだと思います。

同じセリフでも、お客様の数だけ正解が存在するのだということ、

このセリフを通して知りました。

もり
森 馨由
かおる

74年長崎県佐世保市生まれ。佐世保市を拠点に活動する

劇団HIT! STAGE副代表・劇作家・俳優

09年「白波の食卓」で第1回九州戯曲賞大賞を受賞

「血の家」8月21〜23日東京、10月31・11月1日佐世保にて公演予定

「Cases」天使と悪魔」10月3・4日東京にて公演予定
劇団HP▷http://www.geocities.jp/hitstage0402/hitstage.html

アートな穴場

当財団 わの会 提携施設をご紹介します

ミュゼ・オダ

〒814-0133 福岡市城南区七隈 1-11-50
☎ 092-822-8828
http://www.suenaga-bunka.or.jp/art/

今回は、画家 故 織田廣喜のコレクションを常時見ることができる、福岡市城南区七隈にあるミュゼ・オダをご紹介します。生前の織田さんについて嘉麻市立織田廣喜美術館 有江俊哉さんに語っていただきました。

織田廣喜の素描

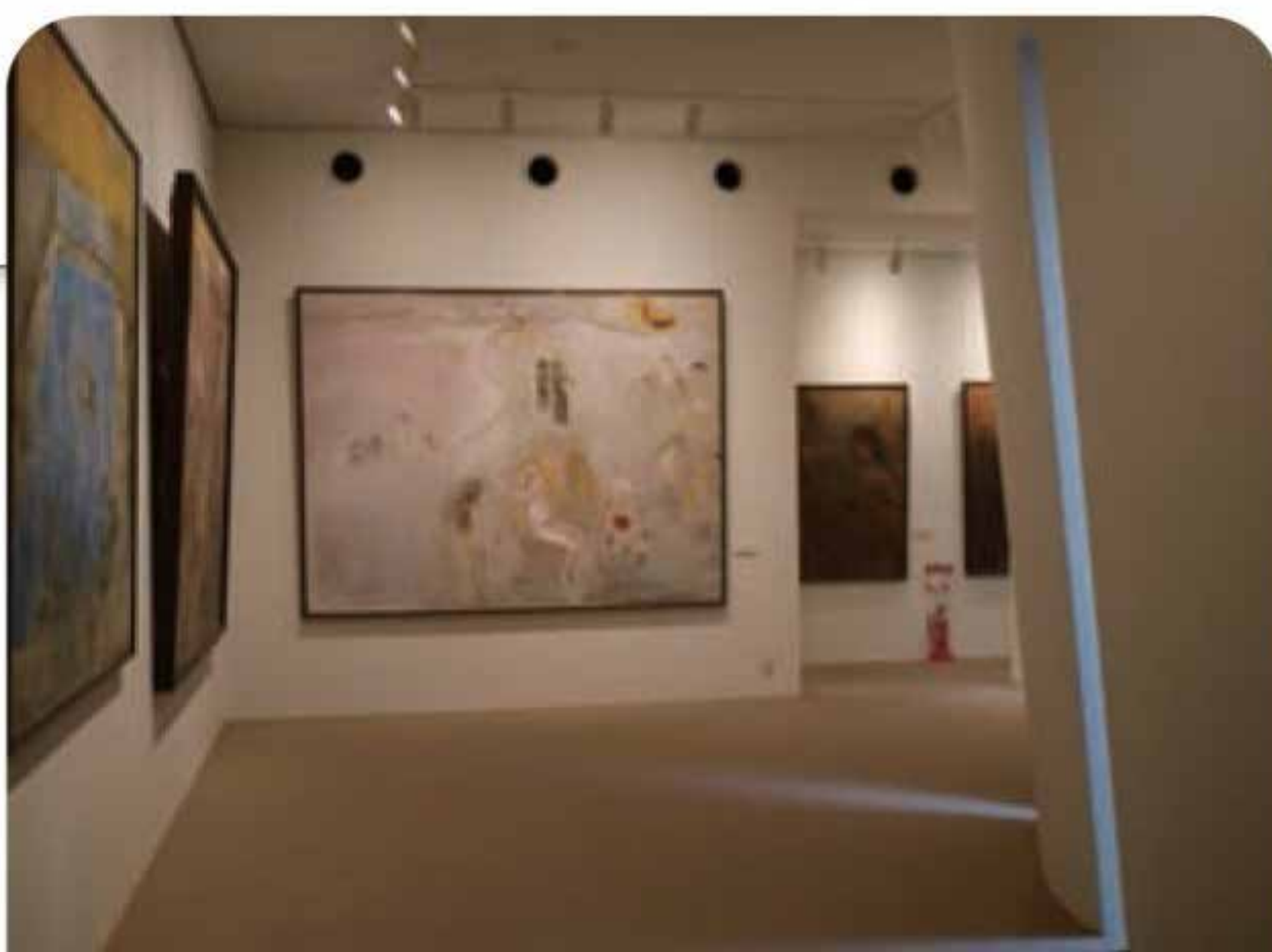
織田廣喜さんと最後にお会いしたのは、彼が98歳の誕生日を迎えてまもない2012年5月の初旬で、東京八王子の病院へ見舞いに伺った時だった。それは織田さんが亡くなる3週間前のことで、病床の画家の手が薄れゆく意識の中でも何かを描くように動いていた事を今でもはっきりと覚えていて。別れ際に手を握らせて頂いたが、それが織田先生との最後のご挨拶となった。絵筆だけではなく、時には指先をも使った。描く画家の手は柔らかく、そしていつも爪の間に絵具を見ることのできた手だった。

常にポケットにメモ用紙を忍ばせ、時にはレストランの紙ナプキンにもデッサンした織田さんは「素描が1枚あれば、タブローが幾つも出来る。しかしいくら色々の工夫を重ねても元絵の素描の感動を越えられない。」と語った。

織田さんが千手村(現嘉麻市)で生まれた1914年は、在野の美術団体として「二科会」が結成された年と重なる。18歳で上京して苦学しながら同展へ出品を続け、1946年戦後初の同展へ出品した『黒装』(福岡市美術館所蔵)で最高賞の二科賞受賞し会員となった。また、『讃歌』(嘉麻市立織田廣喜美術館所蔵)、『風景』(ミュゼ・オダ所蔵)他でも入選を果たしている。二科会との寄り添いは晩年の理事長、亡くなる直前に就任した名誉理事長と生涯続いた。最後の出品となったのは、「古里の思ひで」である。故郷を離れ80年、しかし心は故郷を向き続けた織田廣喜さん。パリの街や赤い帽子の女性で知られる織田さんだが、自身にとつての素描は「ふるさと」だったのであろう。

有江俊哉(嘉麻市立織田廣喜美術館)

▶地下に埋設されたようなデザインの建築で、吹き抜けから優しい光が、叙情的な織田廣喜の絵画を優しく映しだします。



織田廣喜さんの作品は、筆者が勤務する嘉麻市立織田廣喜美術館と福岡市城南区のミュゼ・オダで観ることができます。ふたつの織田廣喜の常設展示を巡り、画家の素描を辿ってみませんか。

Art Trip in 大分

大分といえば？温泉！とり天！おさるさん！…
そしてアートをプラス！
大分県立美術館がオープンし、
さらに盛り上がる大分で、
今夏、開催されるアートイベントをご紹介します！



トイレのラクガキ
by トーチカ



メルティング・ドリーム
by 西山美なコ、笠原美希、春名祐麻

「トイレと文化芸術、人間が生きていく上で
どちらもなくてはならない！共通点を見つけたんです！」
by シャレ発案者の佐藤さん（実行委員会事務局）

トイレを舞台に芸術祭!?

おおいた
トイレナーレ 2015



16組のアーティストがそれぞれの手法で
トイレを丸ごと作品に。
街のトイレ巡りをしながら
新しい大分駅周辺を散策してみても？
開館ほやほやの大分県立美術館も必見！

会期◎7月18日(土)～9月23日(水・祝)
会場◎大分市中心市街地各所※自由にご覧頂けます。
散策情報は Web サイトで！(近日公開) <http://www.toilennale.jp/>
お問合せ◎おおいたトイレナーレ実行委員会事務局
(大分市商工農政部商工労政課内)
TEL◎097-585-6011
E-mail◎toilennale@city.oita.oita.jp

ちょっとカフェでひとやすみ…

the bridge

大分市商店街近くの旧フンドーキン倉庫を
改装したアートカフェ & レストラン。
ランチやディナーができます。
店内トイレにはトイレナーレの作品があります。
大分市中央町 3-3-19
TEL◎097-532-6656

別府現代芸術フェスティバル2015 混浴温泉世界

夏は夜。別府のアートはさらなり。
ひとつ風呂浴びて、夕涼みに出かけませんか？
浴衣、下駄姿で気軽に楽しめそう！
さらにひんやり…できそうな企画も！



開催期間◎7月18(土)～9月27日(日)
会場◎別府市内各所

1 もう一つの時空間をさまよい歩く？

アートゲートクルーズ

別府を愛する案内人が、夜の別府を案内。アーティストたちが
それぞれの場所と対話し紡ぎ出したエピソードに出会うツアー。
誰も知らなかった秘密の別府に出会えるかも!?

開催日時◎
会期中毎週木・金・土・日・月曜および9/22(火・祝)、23(水・祝)
16:00～18:30(土日・祝日のみ催行)、18:00～20:30
集合場所◎JR別府駅構内総合インフォメーションセンター
料金◎中学生以上前売券1,500円/
当日券2,000円、小学生500円(未就学児無料)
参加アーティスト◎枝史織、大友良英ほか

2 町が劇場に？

ベップ・秘密のナイトダンスツアー

案内人に誘われ、町のあちこちでダンスやパフォーマンスに
出会うツアー。国内外で活躍するアーティストが出演。
町が妖しくも魅惑の劇場へと変貌する！

開催日時◎
会期中毎週金・土20:00～(1時間半程度を予定)
7月19(日)・8月13(木)・
9月20(日)・21(月・祝)・22(火・祝)は開催
集合場所◎JR別府駅構内総合
インフォメーションセンター
料金◎中学生以上前売1,500円/
当日2,000円、
小学生500円(未就学児無料)
参加アーティスト◎鈴木ユキオ、
北村成美、Monochrome Circusほか



2008年に別府市中心市街地で開催した
ダンスプロジェクト「踊りに行くぜ!! vol.9」室伏鴻の公演より

3 アーティストが生み出すお化け屋敷!

永久別府劇場・恐怖の館

元ストリップ劇場を会場にアーティストたちがつくる
新感覚お化け屋敷。小学生から大人まで楽しめる仕掛けも。
ご家族どうぞ!

開催日時と参加アーティスト◎
会期中毎週木・金・土・日曜および祝日
[第1期]7月18日(土) - 8月16日(日)
ANTIBODIES Performance&
Interdisciplinary Art Collective (ANTIBO)
[第2期]8月22日(土) - 9月6日(日)/MuDA
[第3期]9月11日(金) - 9月27日(日)/
福岡恐いもの研究会
会場◎永久別府劇場(別府市北浜 1-1-12)
料金◎500円(予約不要/未就学児入場不可)



その他、楽しいアート企画が盛りだくさん!

詳しくは混浴温泉世界Webサイトで!
<http://mixedbathingworld.com/>
お問合せ・お申込み◎
別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会事務局
(NPO 法人 BEPPU PROJECT 内)
営業日◎月～金 9:00～17:30 tel◎0977-22-3560
e-mail◎info@mixedbathingworld.com

演劇、ダンス

舞台公演「Lifemap」 出演アーティスト募集

障がい者の芸術活動を通じ、社会におけるさまざまな既成の"価値"や"枠"を捉え直す舞台公演「Lifemap」の出演者を募集します。ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入の上、郵送かファックス、メールで6月26日(必着)までにお申込ください。お待ちしております！

詳しくは公式HP→(lifemap.marulab.org/)をご覧ください。

お問合せ◎ NPO法人まる 樋口船津丸 ☎092-984-1395
ご応募◎ 福岡市文化芸術振興財団(担当:猪股、後藤)
TEL: 092-263-6265
FAX: 092-263-6259
E-mail: plan@ffac.or.jp



募集

第52回 福岡市民芸術祭参加行事募集

福岡市民芸術祭は、福岡市民の文化芸術活動の発表の場、身近に触れ合う場として、毎年秋に開催されている「芸術のお祭り」です。昭和38年の福岡市民会館オープンを機に、総合的な芸術祭として翌年誕生し、平成27年で52回目。今まで発表してきた方も、初めて触れる方もふるって参加してみませんか？福岡の街を文化芸術の力で盛り上げましょう！

第二次募集期間◎ 平成27年6月1日(月)～7月31日(金)

開催期間◎ 9月27日(日)～12月6日(日)

お申込み◎

ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入の上、持参、郵送、メールのいずれかの方法でお申込下さい。

<http://www.fcaf.jp/>

※応募用紙は、市役所1F情報プラザ、文化芸術情報館アトリエ、当財団にて配布しています。



昨年のオープンイベントの様子

セミナー

アートマネジメントセミナー キックオフイベント「いじるを学び、考える」

「地域ならではのアートマネジメント人材」の育成を目指し、本キックオフイベントと9月～翌3月までの連続講座を開催します。社会と文化芸術をつなぐアートマネージャーが、よりよい活動をするための知識を身につけるプログラムです。プロジェクトの仕掛人として企画をデザインする方法を学びます。

日時◎7月4日(土)13:00-18:30 / 5日(日)10:00-17:00
場所◎福岡市赤煉瓦文化館(〒810-0001 福岡市中央区天神 1-15-30)
お問合せ◎ (公財)福岡市文化芸術振興財団(担当:猪股、後藤)
TEL: 092-263-6300 / MAIL: plan@ffac.or.jp

対象◎アートマネージャー(経験不問)、
アートマネジメントや文化芸術に興味がある人
定員◎30名(要事前申込)

費用◎2日通し3,000円 / 1日のみ2,000円
(※2日通し受講での申込みを優先)

お申込み◎件名を「AMS2015 申込」とし、①氏名(ふりがな)、②年齢、
③ご所属、④電話番号、⑤活動分野(ジャンル)や興味のある分野
⑥通し受講でない方は参加希望日時を明記のうえ、
FAX・メールのいずれかでお申込みください。
FAX:092-263-6259 / E-mail:plan@ffac.or.jp



昨年のセミナーの様子

お知らせ 情報交換の場としてぜひご活用ください

WEBアトリエで つけてつながる!



WEBアトリエ
<http://artlier.jp>

検索



●ユーザー登録して、文化芸術に関する情報を無料で掲載できる投稿型WEBサイト ●イベントや展覧会などの情報を収集できるアート系情報サイト

ダンス および 演劇

子ども文化芸術魅力発見事業
「アーティストとつくる」
ダンス編&えんげき編 参加者募集

「アーティストとつくる」はアーティストと一緒に、ダンスや演劇をつくるプログラムです。決められた振付や台本はありません。みんなのアイデアをもとにオリジナル作品を創作し発表します！



© 富永亜紀子

進行◎康本雅子/振付家・ダンサー、
柴幸男/劇作家・演出家、高橋英明/音楽家

【募集概要】

日時◎ 8月4日(火)～9日(日)〈全6日間〉
各 13:00～17:00(最終日のみ 18:00まで)
*すべての日程に参加できること
*最終日(9日)午後には発表会を行います。
会場◎パピオビールーム
対象◎小学4,5,6年生(ダンスや演劇の経験は問いません)
参加料◎3,000円(保険料込)
定員◎30名(ダンス編15名、演劇編15名)
応募方法◎必要事項を記入の上、
郵送またはメールでお申し込みください。
応募締切◎7月13日(月)必着
*応募者多数の場合は、抽選により参加者を決定します。
*ご応募いただいた方への参加可否通知については、
7月中旬を予定しています。

ご応募・お問合せ◎

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10 福岡県消防会館6階
(公財)福岡市文化芸術振興財団「アーティストとつくる」係
TEL(092)263-6266
URL <http://www.ffac.or.jp>
E-mail: ffac-03@ffac.or.jp

ダンス

福岡ダンスフリンジフェスティバル vol.9
ダンス作品募集

日本全国・アジア諸国はもちろん世界各国から作品を募集して開催する、ダンスの一大イベント「福岡ダンスフリンジフェスティバル」。6月下旬より、フェスティバルに参加するダンス作品の募集が始まります。この機会にぜひチャレンジしてみてください！

詳しくは、公式ホームページ(<http://d-codex.com>)をご覧ください。
日程◎平成28年2月13日(土)、14日(日)
会場◎ぼんプラザホール、紺屋2023・konya-gallery
お問合せ◎NPO法人コデックス
080-5202-1837 / fdffinfo@gmail.com

演劇

こどもとおとな 演劇のトピラ
『パンチネロ～たいせつなきみ～』

昨年度、博多区・西区で上演し大好評だった舞台『パンチネロ～たいせつなきみ～』を、今年は城南区・中央区の各市民センターにて上演します！

日本でも大ヒットした絵本『たいせつなきみ』シリーズを原作に、今、すべての世代に届けたい心温まる物語です。
夏休みは、こどももおとなも、みんなでカンゲキ体験！



昨年の公演の様子

日時◎ ①8月23日(日) 14:00 開演
②8月29日(土) 14:00 開演
会場◎ ①城南市民センター
②中央市民センター

上映時間◎70分
チケット料金◎
大人…1,500円
子ども(高校生まで)…500円、
親子券①(大人1枚+子ども1枚)…1,800円
親子券②(大人1枚+子ども2枚)…2,200円
※わの会割引:各券種から200円引
(※アトリエのみ取扱・前売のみ)
※日時指定・全席自由
※当日券は各300円UP
※未就学児入場不可(託児あり)

チケット発売日◎
6月20日(土)10:00～
チケット取扱い◎
アトリエ、チケットぴあ、ローソンチケット

○公演に先立ち、夏休み期間中に関連ワークショップも開催します。
詳しくは、チラシ・ホームページ等でご確認ください。

pick up goods



黒田関係グッズ
関西でも期間限定販売!

京都・兵庫で開催される展覧会にあわせて、福岡市博物館・福岡市美術館の黒田関係グッズを販売します。

※販売商品…3Dフィギュア、クリアファイル(日本号、黒田官兵衛)等
(販売場所によって取扱商品は異なります。)
○「大関ヶ原展」京都文化博物館 6月2日(火)～7月26日(日)
○「筑前・黒田家が伝えた名宝 - 福岡市美術館のコレクションより」
香雪美術館(兵庫県神戸市) 8月22日(土)～10月18日(日)

常時販売場所
福岡市博物館ミュージアムショップ
福岡市文化芸術振興財団 [郵送販売のみ]
詳しくはこちら→<http://www.ffac.or.jp/goods/>

若手演出家の育成のため、平成19年立ち上げ今年で5回目となる「福岡演劇フェスティバル FFAC 企画 創作コンペティション」を開催しました。5月下旬に白熱のバトルを終えたばかりのFFAC 事業をレポートします。

FFAC レポート

福岡演劇フェスティバルFFAC企画 創作コンペティション 『一つの戯曲からの創作をとおして語ろう』 vol.5 上演審査

5月22日(金)~23日(土)

課題戯曲◎三島由紀夫 近代能楽集より「葵上」
日時◎5月22日(金)19:00、23日(土)13:00
会場◎ぼんプラザホール
主催◎(公財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市
協力◎NPO 法人アートマネジメントセンター福岡、
Pacha(play.art.communication.hakata)、
副賞◎第10回福岡演劇フェスティバルの参加作品として
演劇作品を創作・上演する権利
(制作:FFAC。制作経費として上限100万円を負担します)

開催までの流れ◎

First Stage

- ≡ 書類審査-提出された書類に基づく審査

Second Stage

- ≡ プレゼン審査-課題戯曲の演出プラン、
- ≡ 創作について10分以内でプレゼン

Competition Stage

- ≡ 上演審査-演出プランを基に課題戯曲を上演
- ≡ 上演後、公開審査会、観客投票

審査員◎

岡田利規(チェルフィッチュ) 前川知大(イキウメ) 松井周(サンプル) 森山直人(演劇批評家)
山田恵理香(空間再生事業劇団 GIGA) 山田真実(ttu / 創作コンペティション vol.4 最優秀作品賞受賞)



館亜里沙

東京藝術大学
大学院音楽研究科修了(音楽学)。
2009年安宅賞受賞。
2008年よりオペラを中心に
演出を手掛け、
2010年~2014年
P.コンヴィチュニー氏の
オペラ・アカデミーにて研鑽を積む。
ピアノ演奏でも活動し、
こども向けの音楽イベント、
オペラ・ガラ形式のコンサートなど、
幅広い分野で演出・演奏を行う。



藤原佳奈

1987年生まれ。
兵庫県出身。
京都大学文学部卒業。
2012年にENBUゼミナール同期の
佐藤幸子、佐藤路子と、
演劇創作ユニットmizhenを旗揚げ。
脚本・演出を担当。



観客賞



和田ながら

京都造形芸術大学映像・
舞台芸術学科卒業、
同大学院芸術研究科修士課程修了。
2011年2月に自身の
ユニット「したため」を立ち上げ、
京都を拠点に演出家として活動を
始める。ユニット名の由来は
手紙を「したためる」。
2015年よりアトリエ劇研創造
サポートカンパニー。



最優秀
作品賞

書類・プレゼン・上演というステップは、作品を育てていく時間であると同時に、どのように語り、どう選択を重ねていくのか、演出家としての自分自身を繰り返し見つめ直す貴重なプロセスでもありました。賞をいただくことができ、はたして次のステージではどんなチャレンジをしようか、いま、嬉しい悩みで頭がいっぱいです。

演 劇の演出家には、作品を観客に伝える演出技量が必要であると同時に、創作過程においては自分のアイデアや方法論を言語化することも求められます。

当財団では、演劇創作の主導者である演出家の発掘と育成を目的としたコンペティションを、福岡演劇フェスティバルの一環として開催しています。

5回目の実施となる今年は、課題戯曲を三島由紀夫作、近代能楽集より「葵上」とし、全国から戯曲の解釈と演出プランを募集しました。勝ち進んだ注目の若手演出家3名が最終審査である上演に挑み、次世代の才能が花開き熱いコンペティションとなりました。

上演後の公開審査会では、日本の現代演劇界を率いる演出家たちが審査員を務め、甲乙つけ難い三者三様の演出について批評し、演出の神髄に迫る厳しい議論や今後の展開に期待するはなむけの言葉が送られました。

審査の末、最優秀作品賞が選ばれ、賞受賞者には次回、当フェスティバル参加作品として演劇作品を創作・上演する権利が与えられました。

財団担当者コメント

今年の創作コンペティションも、全国から多くの応募を頂きました。最終審査まで残った3人の演出家たちは、それぞれ自分たちの「葵上」で上演に挑んでくださいました。担当者としては、受賞いかんを問わず、作品についてさまざまな視点から講評をもらえることがこのコンペティションの根幹であると思っています。審査会で語られた言葉を最大限に吸収して、演出家たちが今後の創作の糧としてくださることを心より願っています。

事業コーディネーター 原 夏希



Curator Chat

福岡アジア美術館
松浦 仁

100人呼んだよ!

福岡アジア美術館では、1999年の開館以来アジアからアーティストや研究者を招へいして作品制作や研究、ワークショップ、トークなどをおこなうレジデンス事業をおこなっています。なんと今年招へいする4人のアーティストを加えると、総人数が100人になります。

毎日、夜遅くまで交流スタジオで制作に励んだフィリピンのアーティスト、100人の子どもたちと汗をかきながらはじめてワークショップをしたラオ

スのアーティスト、招待者用研究室の床一面に資料をひろげていたシンガポールの研究者…。一人ひとりが語り尽くせないほどの足跡を残して帰国しました。

5月から滞在している2人のア

ーティスト。ファンコグラフィックさんはモルディブからはじめてのアーティストです。シンガポールのアンジー・シアさんは、福岡の人々と声や日用品を用いて音を奏でるプロジェクトをおこなっています。そして、9月からはチュンリン・ジョリーン・モク(中国)さんとジュジュ・ユ(韓国)さんが滞在します。同じ9月16日に香港とソウルから到着する予定です。遅く到着した方が記念すべき100人目。福岡空港で100人目のセレモニーで熱烈歓迎したら、本人はビックリ、どっきりですね。

アンジーさんが描いた合奏会のイメージ

15



△ハーディム・アリー(パキスタン)「誰もいない台所 5」2006年

福岡アジア美術館

小企画展 イマジン〜争いのない世界へ

6月11日(木)~9月1日(火)

戦後70年の節目にあたって、太平洋戦争やアジアでおこった独立戦争や内戦について、アーティストが何を考え、どう表現したか、所蔵品を中心に約40点で紹介しします。描かれた戦争や戦禍を通して、争いのないほんとうの「戦後」を、想像(イマジン)してください。

招待券
5組
10名様

《締切7/10(金)



△重要文化財 銀箔押一の谷形兜・黒糸威五枚胴具足(福岡市博物館蔵)

福岡市博物館

徳川家康没後400年記念 特別展「大関ヶ原展」

平成27年8月7日(金)~10月4日(日)

今年は徳川家康没後400年目にあたります。これを記念して天下分け目の戦いとなった関ヶ原合戦の全貌を紹介する展覧会を開催します。合戦に参加した武将ゆかりの武具甲冑・合戦図や、合戦前に密かにやりとりされた密書などを展示し、合戦の実像に迫ります。

招待券
5組
10名様

《締切8/10(月)



△菱川宗理《見立六歌仙図》板橋区立美術館蔵

福岡市美術館

肉筆浮世絵の世界

8月8日(土)~9月20日(日)

「肉筆浮世絵」とは、浮世絵師が筆で描いた「絵画」のこと。鈴木晴信、喜多川歌麿、葛飾北斎など200年にわたる浮世絵の歴史を代表する68人の浮世絵師たちによる作品と、浮世絵誕生前夜の無款の作品とを合わせて約170件の「肉筆浮世絵」を展示します。

招待券
5組
10名様

《締切8/10(月)

九州国立博物館

九州国立博物館開館 10周年記念特別展 大英博物館展 100のモノが語る世界の歴史

7月14日(火)~9月6日(日)

世界最大の博物館のひとつ、大英博物館が総力をあげて選りすぐった100点で構成。人気映画や教科書でもおなじみの名品が勢ぞろい。まるで未知の世界を旅するようなドキドキ・ワクワク感いっぱいの体験をお楽しみに。



© The Trustees of the British Museum

△ルイス島のチェス駒 1150-1200年 イギリス、ルイス島 おそらくノルウェーで制作

招待券
5組
10名様

《締切7/10(金)

読者プレゼント

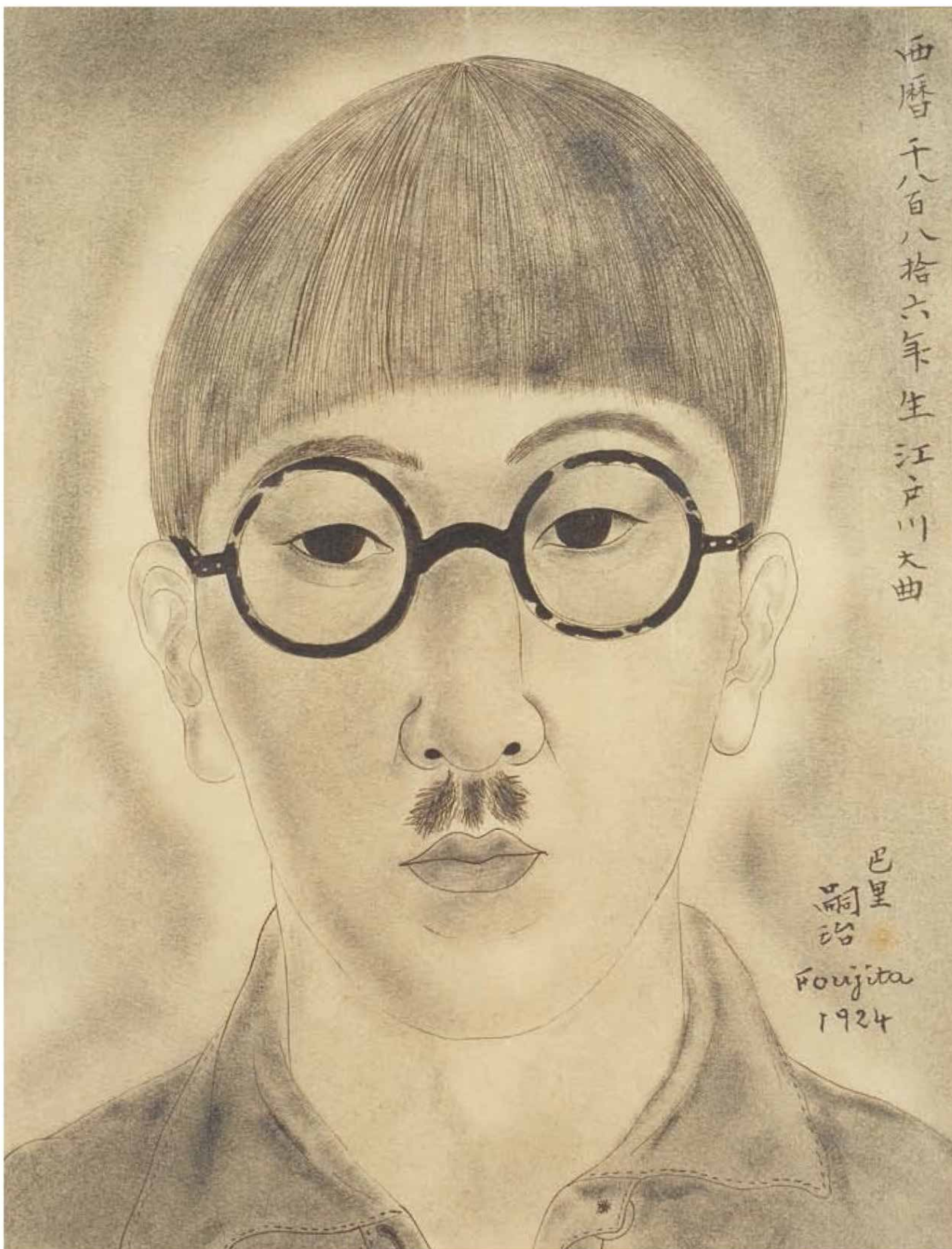
下記を明記の上郵便ハガキ、ファックス、またはメールにてご応募ください。

- 1 ご希望のプレゼントの美術館・博物館名
- 2 住所・氏名・年齢・電話番号
- 3 「wa」を手にした場所
- 4 良かったページ
- 5 興味がなかったページ
- 6 本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
- 7 本誌や財団に期待すること、ご意見など

応募先
福岡市文化芸術振興財団「wa」編集部
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-10
福岡県消防会館 6F
FAX: 092-263-6259
E-mail: pr-co@ffac.or.jp

パレットと自画像でさぐる

画家の素顔

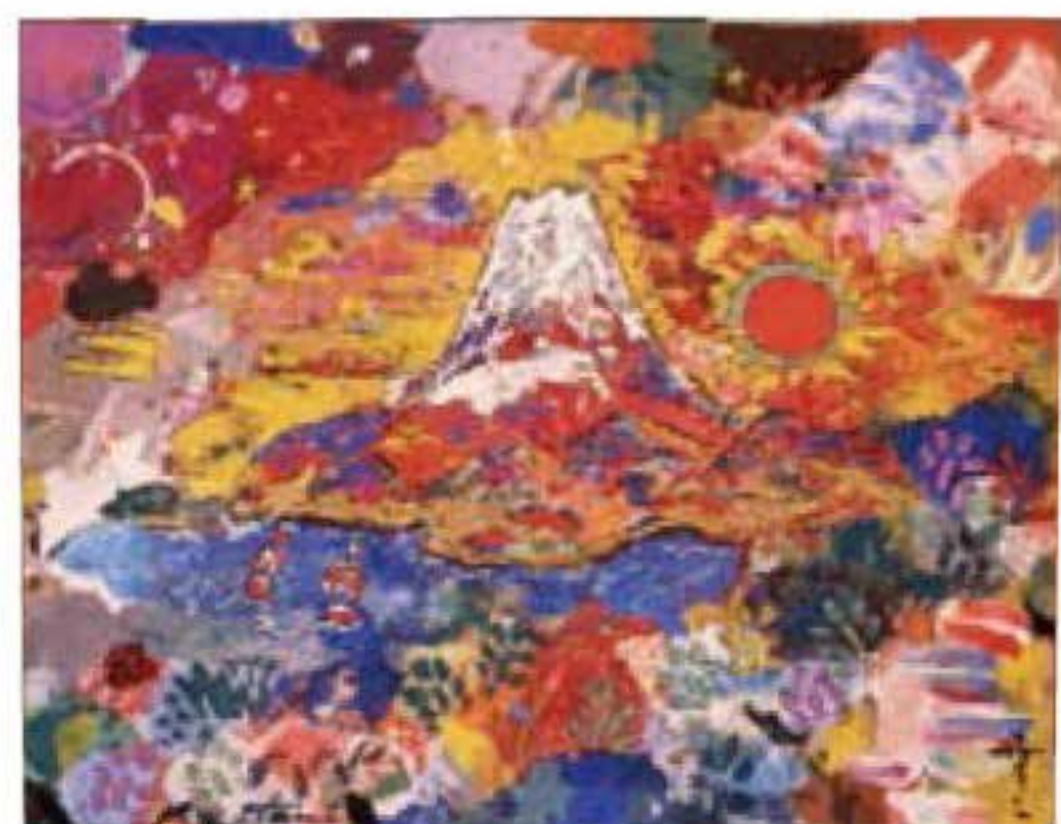


レオナルド・フジタ《自画像》1924年

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2015 X0040



平野 遼のパレット 1978年頃



絹谷幸二のパレット 1999年



北川民次のパレット 1967年頃

洋画家、59名の新たな魅力。

2015 4.25 Sat → 7.5 Sun

- 休館日/月曜日 ○開館時間/10:00-17:00(入館は16:30まで)
 - 入館料/一般800円(600円)、シニア600円(500円)、大高生500円(400円)、中学生以下無料
※()内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上
 - 前売券/500円 ※チケットぴあ、ローソンチケット取扱店などで販売(Pコード766-539、Lコード81977)
- 主催/石橋財団石橋美術館、朝日新聞社、TVQ九州放送 ■後援/久留米市、公益財団法人久留米文化振興会 ■協力/公益財団法人日動美術財団
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 TEL 0942-39-1131 FAX 0942-39-3134 <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>



石橋美術館
公益財団法人 石橋財団
ISHIBASHI MUSEUM OF ART
ISHIBASHI FOUNDATION

福岡から久留米まで電車で約30分!
※西鉄・特急、JR・快速ご利用の場合